

第 37 回 木津川上流河川環境研究会 議事概要（案）

【開催概要】

開催日時： 令和 4 年 3 月 7 日(月曜日) 15:00～17:45

開催場所： 会場：メルパルク京都 4 階 研修室 3、WEB と併用で実施

【出席者】

委員： 会場 3 名（角座長、海老瀬委員、松井委員）

WEB 4 名（竹林委員、平山委員、藤村委員、堀委員）

欠席 1 名（森委員）

事務局： 会場 木津川上流河川事務所 4 名（大西副所長、長坂調査課長、中辻流域調整係長、大橋係員）

WEB 木津川上流河川事務所 4 名（小寺所長、中村建設専門官、前田工務課長、森本管理課長）

WEB 河川部河川計画課 1 名（森田課長補佐）

オブザーバー： 会場 水資源機構木津川ダム総合管理所 1 名（松本調整課長）

WEB 水資源機構関西・吉野川支社淀川本部 3 名（犬童施設管理課長、大島事業課長、下川課長補佐）

水資源機構川上ダム建設所 1 名（松浦環境課長）

水資源機構木津川ダム総合管理所 2 名（國枝所長、西津主査）

【議事次第】

1. 開 会
2. 挨拶
3. 議 事

- (1) 前回 第 36 回研究会および各ワーキングでの指摘対応の確認
- (2) 木津川上流川づくり計画の概要と名張川引堤箇所の環境配慮方針について
- (3) 堰・魚道 連続性再生検討について
 - ・縦断連続性再生検討：今年度の検討結果と次年度の調査・検討方針案
 - ・横断連続性再生検討：今年度の検討結果と次年度の調査・検討方針案
- (4) 河道内樹林管理検討について
 - ・今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案
- (5) 水量・水質検討について
 - ・水量・水質に関する報告
- (6) 土砂管理検討について
 - ・木津川上流における土砂管理に関する取組みについて
 - ・水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組みについて

4. 閉 会

【配付資料】

- ◆議事次第 / 席次表 / 木津川上流河川環境研究会 設立趣意・規約
- ◆資料 1 : 第 36 回木津川上流河川環境研究会等 指摘対応
- ◆資料 2 : 木津川上流川づくり計画の概要
- ◆資料 3-1 : 木津川上流 縦断連続性再生検討資料
- ◆資料 3-2 : 上野遊水地 横断連続性再生検討資料
- ◆資料 4 : 河道内樹林管理検討資料
- ◆資料 5 : 水量・水質に関する報告
- ◆資料 6-1 : 木津川上流における土砂管理に関する取組み
- ◆資料 6-2 : 水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組み

【審議内容】

(1) 木津川上流河川環境研究会について

事務局より、前回 第 36 回研究会および各ワーキングでの指摘対応について説明を行った。
(質問や意見なし)

(2) 木津川上流かわづくり計画の概要と名張川引堤箇所環境配慮方針について

事務局より、木津川上流川づくり計画の概要と、名張川引堤箇所の環境配慮方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・引堤により川幅が広がると、砂州形状の変化も想定される。実施中の平面二次元河床変動計算結果も踏まえ、出水による砂州形状の変化もイメージしながら環境配慮について検討を進めていくとよい。〈竹林委員〉
- ・想定以上の出水が生じた場合は、現地の状況を確認し、ワーキングや研究会で情報提供いただきたい。〈角座長、海老瀬委員〉
⇒出水による環境変化を把握するための調査について、ワーキングや研究会でも相談させていただきながら検討を進める。〈事務局〉
- ・これまでは土砂移動についてはあまり議論されてこなかった。今後は植生や景観だけではなく、流量や土砂移動を踏まえた川づくりが重要である。目標とする環境を創出し、持続的に管理していくためにも、流量、土砂、地形を総合的に捉えながら、効率的に進められるように検討していくとよい。〈角座長〉

(3) 堰・魚道 連続性再生検討について

1) 縦断連続性再生検討：今年度の検討結果と次年度の調査・検討方針案

事務局より、縦断連続性再生検討に関する本年度の検討結果と次年度の調査・検討方針について説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・魚道機能評価で未実施となっている横断工作物については、これから評価を実施していく予定はあるのか。〈松井委員〉
⇒地元での魚道整備の機運が高まらず、連続性再生が行えていない場所では、環境学習会等を行うことにより、意識醸成に取り組んできた。現在はコロナ禍で取り組めていないが、今後の進

め方は次年度に議論させていただきたい。〈事務局〉

- ・相楽発電取水井堰と大河原発電取水井堰については、必要な時期に魚道に通水されるように、引き続き管理者との調整を続けていただきたい。〈角座長〉

2) 横断連続性再生検討：今年度の検討結果と次年度の調査・検討方針案

事務局より、横断連続性再生検討に関する本年度の検討結果と次年度の調査・検討方針について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・横断連続性再生の取り組みは、地域との連携がうまく進んでいないように感じているため、今後の取り組み方針を再検討することはよいことである。〈松井委員〉
- ・横断連続性再生の取り組みを進めるにあたり、どのように情報発信していくかについて、事務所内での議論は進んでいるのか。〈角座長〉
⇒米のブランド化などを通して地元に関心を持ってもらえるのではないかと考えているが、具体的な議論は進んでいない。〈事務局〉

(4) 河道内樹林管理検討について

事務局より、河道内樹林管理に関する今年度の調査・検討結果と次年度の調査・検討方針案について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・伐採竹を活用できるバイオマス発電所との連携について、更に進めていただきたい。〈藤村委員〉
- ・名張川の下流側に比較的多いみられるネザサについて、対策や検討は行っているか。〈藤村委員〉
⇒樹木伐採や検討は、治水上課題のある範囲に主にみられるマダケやメダケを対象に、優先的に行っている。ネザサの伐採の優先度は低いが、必要に応じ今後検討していく。〈事務局〉
- ・試験伐採やモニタリング調査について、長期に渡り実施され、データが蓄積されているため、今後の活用を見据え、情報を整理しておくとうい。〈藤村委員〉
- ・タケ類のバイオマス発電への活用にあたっては、焼却炉の劣化がネックとなることがわかった。今後は、タケ類に適した焼却炉の開発が必要となるため、単独事務所での対応は難しいかもしれないが、必要とする事業者やメーカーと連携し、進めていくことも考えるとよい。〈角座長〉

(5) 水量・水質検討について

事務局より、木津川上流管内の水量・水質について説明を行った。議事の主な内容は以下の通りであった。

- ・令和3年3月の伊賀上野橋のBODの高値は、下流地点でも高い傾向がみられているため、一時的なものではなく何らかの要因があったと推定できる。水質の異常を考察するには、他の水質項目をあわせて確認することも必要である。水質の動向には注意が必要であるため、今年度のデータがそろった段階で結果を確認させていただきたい。〈海老瀬委員〉
- ・事務所ホームページで公開されている水質マップについて、いつ時点の水質かを示す必要がある。また、環境基準の種類の説明がないため、一般の人にもわかりやすい説明が必要である。また、水質マップの更新頻度について、方針があれば教えて欲しい。〈堀委員〉

⇒水質マップの更新時期や頻度は、あらためて整理して報告する。また、ご指摘の点について、わかりやすい工夫をしていく。〈事務局〉

- ・水質に限らず、各種の調査結果については、公表し、自治体や地域住民と情報共有していくことが重要である。特に水質は地域住民にも理解しやすい内容であるため、情報共有を充実させていっていただきたい。〈角座長〉

(6) 土砂管理検討について

1) 木津川上流における土砂管理に関する取り組みについて

事務局より、木津川上流における土砂管理に関する取り組みについて説明を行った。

2) 水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組みについて

水資源機構より、水資源機構(木津川上流ダム群)における土砂管理に関する取組みについて説明を行った。議事の内容は以下の通りであった。

- ・置砂の表面に凹凸を設けることや、出水後に粒径化した置砂を攪拌することにより、流出が促進されるため、参考にするとよい。〈角座長、竹林委員〉
- ・高山ダムの堆積土砂を土砂還元を用いる際は、細かい粒径は濁りやすくなるため、まずは中砂、粗砂以上の土砂を用いるとよい。〈角座長〉

(7) その他

事務局より、次年度の河川環境環境研究会等の開催予定について説明を行った。

以 上